

みゅーじあむ・船橋

令和8年3月

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ
Vol.26
船橋



第26号

博物館ニュース	[2]
高根木戸遺跡と高郷小学校の遺跡資料室	[3-5]
船橋の明治・大正・昭和 「明治の大合併」—法典村と塚田村—	[6-7]
インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館

企画展「昭和100年 写真と映像で見る船橋の昭和」



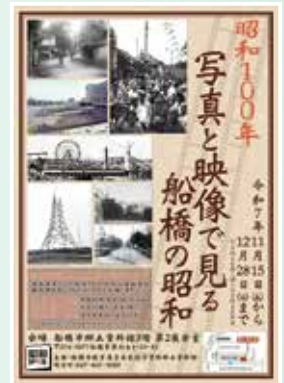
郷土資料館では、令和7年11月15日から12月28日までの期間で企画展「昭和100年 写真と映像で見る船橋の昭和」を開催しました。

令和7(2025)年は、昭和元(1926)年から数えて「昭和100年」の年でした。その節目の年にあたり、船橋市誕生以前の昭和初期の船橋市域から、戦後復興や高度経済成長を経て、大都市の近郊都市として大きく変貌してゆく船橋市の昭和時代の様子を、当館

の所蔵する写真や映像資料などにより紹介しました。

本展示では船橋市域の発展をまとめた年表をはじめとして、戦後の船橋市を象徴する船橋ヘルスセンターを大きく取り上げたほか、市制施行の周年事業などで作成された市政記録映画の16ミリフィルムを映写機で上映する映画会も開催しました。

また、来場者からご好評をいただいたため、展示期間終了後には3月31日まで、2階第1展示室と3階ギャラリーにて、一部資料を引き続き展示しました。



飛ノ台史跡公園博物館

企画展「ふなばしを掘る 発掘速報展」

飛ノ台史跡公園博物館では、令和7年10月18日から12月28日まで、企画展「ふなばしを掘る 発掘速報展」を開催し、会期中62日間で5,971名の方々にご来館いただきました。

船橋市内では、毎年約40件の発掘調査が行われています。全ての発掘調査に大発見があるわけではありませんが、一つ一つの調査成果を繋ぎ合わせていくことで、地域の歴史が明らかになりつつあります。今回の企画展では、過去10年間の発掘調査成果を中心に紹介し、これまで市民の皆様目の触れる機会がなかった遺跡の出土資料を展示しました。紹介した遺跡は、海老ヶ作貝塚、宮前遺跡、ついじ台貝塚、上ホシ遺跡、夏見台遺跡群、東中山台遺跡群です。昨年度が「縄文と弥生」をテーマにした企画展だったため、弥生時代の土器は展示しませんでした。縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代までの遺物を展示し、土器の移り変わりがよくわかるような展示の工夫をしました。展示を見て船橋市内の発掘調査の現状に驚かれるお客様も多く、反響の大きい企画展となりました。



企画展ポスター



展示の様子

また会期中は、無料観覧日を2日間設け、延べ265名が入館されました。同日に行われたギャラリートークには延べ71名が参加され、埋蔵文化財調査事務所の職員から発掘調査時の話を詳しく聞ける貴重な機会となりました。関連イベントとして、子どもから大人まで楽しめるクイズラリー、期間限定の企画展Versionも併せて実施し、227名のお客様が当館オリジナル缶バッジをお持ち帰りになりました。今後も当館の企画展にご期待ください。

高根木戸遺跡と高郷小学校の遺跡資料室

① 学校と郷土資料室(学校博物館)

出前授業などで学校にお邪魔させて頂く機会が増えていくなかで、学芸員として気になる存在だったのが、学校に保存されている、古い道具や考古資料です。農具や照明器具、台所用品、黒電話、戦前の教科書などに交じって、近くで採集されたものか、縄文土器や鍬、泥めんこなども展示されていることもあります。これらは児童・生徒の学習での利用を想定して整えられているものが多く、学校博物館とも言えるものです(注1)。

② 学校と遺跡

船橋市内の学校の一部は、学校がある場所が遺跡になっているなど、学校と遺跡は近い存在と言えます。昭和40年代以降になると、児童・生徒数の増加に伴い、学校建設が計画され、その工事に合わせて発掘調査が行われることがありました(表1)。

学校建設時の発掘調査は、校歌など学校のアイデンティティとしてその後に学校に通う児童・生徒にも引き継がれています。飛ノ台史跡公園博物館に隣接している海神中学校の校歌では「飛の台 わが学ぶ園」と遺跡の名前が歌い込まれています。

表1 学校建設時に発掘調査を行った主な学校

学校名(所在地)	遺跡名	調査時期
高郷小学校(西習志野)	高根木戸遺跡	昭和42・43年
高根東小学校(高根町)	古和田台遺跡	昭和46年
夏見台小学校(夏見台)	八栄北遺跡	昭和47年
海神中学校(海神)	飛ノ台貝塚	昭和52・53年
船橋北高校(神保町)	八木ヶ谷遺跡	昭和59年

③ 高郷小学校遺跡資料室の設立経緯



図1 開校当時の高郷小学校(20周年記念誌より)

高郷小学校は昭和43年4月に開校した小学校です(図1)。小学校の建設に先立ち、昭和42年7月～9月に縄文時代中期の竪穴住居跡75軒、小竪穴129基、貝塚などを発掘し、大量の縄文土器や石器などが出土しました。博物館でも土器や石器を展示しているほかジオラマを展示しており、市内を代表する縄文時代の遺跡です。遺跡の発掘は、高郷小学校の校歌に「遠い祖先をしのばせる 古代の遺跡まもりつつ 文化の誇り受け継ぎて」と歌われ、校章にも高根木戸遺跡から出土した貝がモチーフにされるなど、高根木戸遺跡の発掘が学校の歴史として共有されています(図2)。昭和50年代半ばに児童数がピークとなった高郷小学校も近隣小学校の新設などもあり、徐々に児童数が減っ



図2 高郷小学校の校章

図案化された「小」と縄文時代の貝・縄を表している(20周年記念誌より)

ていきます。そんな中、昭和63年に創立20周年を迎え、記念事業の一環として校内に「高根木戸遺跡記念室(現在の遺跡資料室)」が開室されたようです。遺跡資料室には記念行事を行った昭和63年6月1日の日付が書かれたパネルが保管されていました。この部屋の開設の経緯は20周年記念誌にもあまり書かれておらず、不明な部分が多いのですが、記念誌を読んできくと昭和62年度卒業生の思い出として「それから、去年(注：昭和62年)、四階が空き教室になったのを利用して、資料室が作られました。そこには、高郷小学校を建てる時に発掘した縄文土器など、高根木戸遺跡の出土品がいくつか展示してあります。六年生になって歴史の勉強をするとき、実際にそういう物を見ることができるので、とても役に立ちます。資料室ができて、やっと「古代の遺跡守りつつ」ということが実現され、ぼくたちの身近なものになってきたように思います」(注2)という文章が載せられていることから、遺跡資料室は昭和62年ごろに作られ、場所も現在と同じ場所だったようです。郷土資料館の日記抄を見ると、昭和62・63年は高郷小学校への遺物の貸出し記録があり(注3)、20周年事業に関連して高根木戸遺跡への関心が高まっていた様子が窺えます。

④ その後の遺跡資料室

そんな高郷小学校の遺跡資料室ですが、平成16年に文化課が主導してリニューアルが図られます。当時の資料を見ると、設置の目的として「郷土・船橋に対する学習理解を深め、生まれ育った郷土や日本の歴史・文化への興味関心を育む」とされ、運営については当初から当時の高郷小学校PTAに働きかけ、保護者のボランティアによる自主的な運営を目指していました。活動開始時には18名のボランティアが

関わり、毎週火・木の9:30～13:00・13:00～15:30が開放日とされ、保護者の見学も想定していたようです。

博物館の紀要ではその後の遺跡資料室の活動も紹介しています(注4)。リニューアルから9年経った平成25年の活動では、展示の更新が図られ、高根木戸遺跡の縄文時代と現代の2つの時代を比べるジオラマが作成されました。

⑤ 現在の活動

現在、高郷小学校遺跡資料室に展示されている高根木戸遺跡の遺物は、遺物の所在が明確になるように博物館と高郷小学校で年度初めに書類を取り交わし貸出しということで遺跡資料室に置かれています(図3)。ここ数年は遺跡資料室ボランティアの方々が研修として博物館を訪れ、縄文時代や高根木戸遺跡のことやワークショップを学んでもらっています。今年度は遺跡資料室でどのような活動を行っているのかを知るため、活動の見学と聞き取りをさせていただきました(注5)。

現在活動しているボランティアは19名、今年度も4名が新しく加入したとのことでした。近年の最大人数は30名だったとのことでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け活動がやや縮小してしまったようでした。活動日



図3 ジオラマと土器を見る児童

は週1回水曜日のお昼休みを中心に行っている
ようで、見学に行った日は、8名のボランティ
アが活動しており、資料室は50名以上の児童
で溢れていました。来室した児童はどんぐり割
りや、かご編みをしたりジオラマを見たりして
いました(図3・4)。

聞き取りによると、子どもの昼休みの居場所
になっている一方で、社会科の授業等では現在
はあまり活用がされていない様子でした。しか
し、高郷小学校の児童の多くが進学する七林中
学校に出前授業へ行った際の反応では、他の小
学校から来た生徒よりも縄文時代に対する関心
が高い様子が見受けられ、遺跡資料室が歴史学
習に役立っているようでした。



図4 遺跡資料室の様子

⑥ 今後について

平成16年に遺跡資料室をリニューアルした
際の目論見どおり、20年以上にわたって遺跡
資料室のボランティア活動は自律的に、高郷小
学校児童に学校建設で発掘された高根木戸遺跡
の面白さを伝えてきました。それは遺跡ボラン
ティアとして楽しみながら活動を続けてこられ
たボランティアのみなさまのおかげです。

リニューアル時の資料を読んでいくと、高郷
小学校をモデルケースとして、他の学校にも同
様の活動を広げていきたいという理想が見えま
す。その形態は展示室から廊下などの利用ま

で、様々な規模が想定されていました。令和6
年度は取掛西貝塚に近い芝山西小学校の職員玄
関前に取掛西貝塚を紹介するパネルを置かせて
いただきました(図5)。今後は、小・中学校で
保管されている考古資料の把握を進めていき
たいと思います。



図5 芝山西小学校のパネル

学校を取り巻
く情勢や、学習
のニーズは遺跡
資料室が開設さ
れた昭和60年
代と現在では異
なり、これから
も変化していく
と思います。よ
り良い博物館と
学校との関係を
構築し、歴史や

遺跡に興味を持つ人を増やしていく方法を探っ
ていきたいと思います。

参考文献

- 注1 村野正景 2022「学校博物館の基礎的研究」
『国立歴史民俗博物館研究報告』第234集
- 注2 『たかさと創立20周年記念』1988 p.41
船橋市立高郷小学校
- 注3 『資料館だより』41号 1987・『資料館だ
より』45号1988 船橋市郷土資料館
- 注4 栗原薫子 2015「博物館と文化財を活か
した博学連携の試み(その2)」『飛ノ台
史跡公園博物館紀要』第12号
- 注5 ボランティア活動聞き取りは博物館に研
修に来館した令和7年11月20日、遺跡
資料室での活動の見学は令和7年12月3
日に行った。

(狩野 美那子)

「明治の大合併」——法典村と塚田村——

いわゆる「明治の大合併」と呼ばれる出来事を知っていますか。明治22(1889)年4月1日に施行された「市制町村制」のため、明治21年末に71,314あった町村は、明治22年末に15,859市町村に合併されました。このとき、1村を300～500戸にすることが標準とされました。船橋市域における「明治の大合併」では、44村が7町村に合併されました【表】。しかし、標準と比べて法典村と塚田村の戸数がとても少ないです。この2村が合併すれば300戸以上になるのですが、なぜ合併しなかったのでしょうか。

今回はこの疑問について、第一に村の成り立ちと生活をみます。第二に両村の対立を学校問題からみます。以上を踏まえて船橋市域における「明治の大合併」に迫りたいと思います。

1 法典村と塚田村の比較

【表】には、〇〇新田という村名が多くあります。これらは、江戸時代に新しく開墾された新田村です。法典村域と塚田村域にみられる4つの新田村は行徳や田尻(現：市川市)の人々によって延宝年間(1673～1681年)に開墾されました。法典村は近世になって人が暮らし始めた地域の村が合併して誕生したといえます。一方、塚田村域には前貝塚村、後貝塚村があります。貝塚という村名の通り、先史時代から人が住んでいた地域であり¹、少なくとも

中世からの集落が続いていた古村です。

つまり、両村域は村の成立の仕方から異なっていました。このことは生活の柄の違いにも影響を与えます。その違いがわかる明治中期頃の子どもの様子、当時を生きた人から聞いたというエピソード²からみてみましょう。

塚田と法典のこどもたちが喧嘩すると、お互いに谷津田をはさんで(中略)塚田側からは、“法典の奴らの粟飯食らい”——法典には水田がないからでしょうね。一方、法典側からは、“塚田の奴らのオンボロデー”——いつもボロボロばかり着ている、という意味でしょう。いずれにしても両村とも貧しかったんですね(笑)

「法典の奴らの粟飯食らい」という言葉は、人が住んでいなかった台地を開墾した畑作中心である新田村の暮らしの実態をよく表しています。

2 「学校二関スル問題」

大正6(1917)年頃に作られたと思われる『塚田村誌』には、村役場に関する記述が殆どありません。実は、法典村と塚田村は合併せずとも、明治22年4月に組合村となり、村役場の位置が確定しない時期がありました。そのため、村役場に関して「両村ノ事情ハ非常ニ複雑ヲ極メタレバ此際慎重ノ態度ヲ

【表】 現船橋市域における「明治の大合併」

東 葛 飾 郡					千 葉 郡					
船橋町	八栄村		葛飾村		法典村	塚田村	二宮村		豊富村	
船橋九日市村	南金杉村	東夏見村	寺内村	山野村	藤原新田	前貝塚村	滝台新田	薬園台新田	神保新田	大神保村
船橋五日市村	高根村	西夏見村	西海神村	古作村	丸山新田	後貝塚村	前原新田	三山村	金堀村	楠ヶ山村
船橋海神村	二和村	七熊村	二子村	本郷村	上山新田	行田新田	上飯山満村	田喜野井村	坪井村	小室村
	三咲村	米ヶ崎村	印内村	小栗原村			下飯山満村		古和釜村	小野田村
									大穴村	行々林村
									八木ヶ谷村	車方村
戸数： 2084 人口： 11822	戸数： 584 人口： 3000		戸数： 580 人口： 3461		戸数： 216 人口： 1358	戸数： 141 人口： 1021	戸数： 505 人口： 3102		戸数： 412 人口： 2610	

※戸数および人口は明治24年度。

船橋市教育委員会編『船橋市の歴史——近・現代編——』(船橋市、1999年)、鹿島長二郎編『千葉県新町村名並二役場位置』(鹿島長二郎、1890年)より作成。

以テ十分ナル調査ヲナスノ要アリ」、記述ができませんとしている。そこには「爾来学校ニ関スル問題ニテ紛擾」があったようです³。

では、この「問題」とはなんだったのでしょうか。合併以前は連合村の制度【図】があり、7村の子どもたちは戸長役場もある藤原新田の法典小学校に通っていました。ただ、藤原から遠い塚田村域の村々は「通学ノ遠隔ナルヲ厭イテ荐リニ分校ノ設立アランコトヲ希望」⁴していました。ところが、明治19年に小学校令が施行されると、連合村内で高等小学校を作る気運が高まります。そして明治20年11月12日に法典高等小学校が設立されました。この決定に対して、連合村内の前貝塚村、後貝塚村、行田新田、道野辺村は明治21年2月に「村立法典高等小学校設置御認可取消願」を東葛飾郡に提出します⁵。

元来我力連合内ニ於ケル尋常小学校維持法スラ猶未タ完全周備シタリト云フニ非レバ此上學資金積立ノ民力ニ耐コカラサルハ勿論、高等小学生ノ如キ僅ニ数名ニ過キスシテ距里僅カニ二、三里外ニ松戸高等小学校アレハ原ヨリ不必要ナルノミナラス村費ヲ要スル如キ(後略)

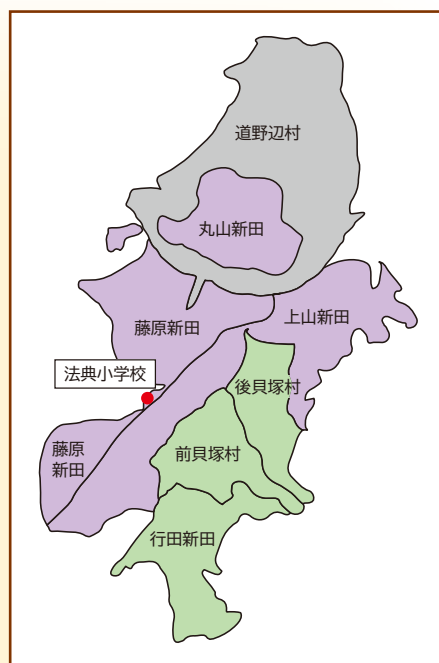
今ある学校の維持も十分ではないのに、不必要な高等小学校はいらないという主張です。その後、同年7月に、①高等小学校の経費は藤原新田、丸山新田、上山新田の3村が負担すること、②4村は今後、学区分離の出願をしないこと、として決着がつきました(「約定書」)⁶。しかし、分校設置は棚上げにされたままで両地域の対立は解消されませんでした。

おわりに

明治21年11月に上山新田、藤原新田、丸山新田の3村から「請願書」が郡長に提出されました。町村合併において、前貝塚村、後貝塚村、行田新田との合併を「不和ノ町村ト結合スルトキハ、(中略)我力人民ノ幸福ヲ増進セシメ得ラレザルコトト感銘苦慮ニ堪ヘズ」⁷と主張しています。

そして、連合村は道野辺村を除いて明治22年4月にそれぞれ法典村と塚田村に分かれて合併しました。ただ、先述の通りに2村は組合村として組

織されましたが、両村は同年5月に郡長に対して連名で「組合取消之儀ニ付願」⁸を提出して、「両村之儀ハ民情和セス、随テ組合トシテ法律上ノ義務ヲ負担スヘキ見込ミ無之ニ付」と拒否します。その後、ついに、



【図】藤原新田戸長役場所轄(連合村)区域

同年6月に組合も解消され、それぞれが一村として独立するにいたりました。

以上、「明治の大合併」で合併しなかった村をみてきました。新田村と古村による生活の違いや、「学校ニ関スル問題」により両村は合併しませんでした。今回の事例は、「明治の大合併」が地域の事情により成立しなかった具体例の一つです。このように、自分の住んでいる自治体がどんな過程を経て形成されたのかを調べることは、現在の地域社会、地方自治を歴史から考える一助となります。

(樋浦 豪彦)

- 1 『船橋市史 前篇』(船橋市、1959年) 598頁、604頁。
- 2 『塚田史』編纂委員会編『塚田史—わが街・きのう、きょう、あす』(塚田地区連合自治会、1987年) 47頁。
- 3 『船橋市史 史料編 5』(船橋市、1984年) 374頁。
- 4 船橋市学校百年史編集委員会編『船橋市学校百年史』(船橋市教育委員会、1973年) 234頁。
- 5 『船橋市史 史料編 9』(船橋市、1997年) 329～330頁。
- 6 同上、330～331頁。
- 7 『船橋市史 史料編 8』(船橋市、1996年) 71頁。
- 8 同上、77頁。

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。
 ※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転台を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和8年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
5月1日(金)～6月21日(日)	国際博物館の日記念企画展 「記憶を伝える一玉川旅館をめぐる人と資料―」	3階第2展示室

※郷土資料館は館内改修工事のため、令和8年7月から令和9年3月まで休館します。（SLの公開は実施します。）

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、土曜日・日曜日に有料ワークショップを実施しています。

【令和8年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
4月18日(土)～7月5日(日)	縄文ラボ	1階ギャラリー
5月16日(土)・17日(日)	国際博物館の日記念無料観覧日 (展示解説あり)	1階～3階展示室
7月18日(土)～8月30日(日)	とびはく大冒険	1階～3階展示室
7月18日(土)～8月30日(日)	郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館 共催企画展 「遊ぼう!学ぼう!とびはくで! (仮)」	1階ギャラリー
9月19日(土)～10月12日(月祝)	絵画コンテスト	2階展示室
9月20日(日)・27日(日)	縄文大学	船橋市民文化創造館(きららホール) 船橋市本町1-3-1フェイスビル6階



協力：
船橋市華道連盟



「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡

ご利用案内・交通案内

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp
 休館中(令和8年7月～令和9年3月)は、飛ノ台史跡公園博物館へご連絡ください。

交通案内

京成松戸線 習志野駅下車徒歩10分
 JR津田沼駅北口から
 京成バス千葉セントラルで
 「郷土資料館」下車徒歩2分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 一般110円(団体20名以上70円)
 児童生徒50円(団体20名以上30円)
 市内在住中学生以下 無料
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
 新船橋駅下車徒歩8分
 京成本線 海神駅下車徒歩15分
 東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分
 京成バス千葉ウエスト
 JR船橋駅北口から山手ループ線
 「海神中学校前」下車徒歩1分



休館日カレンダー

4月							5月							6月							7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
5	6	7	8	9	10	11	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
12	13	14	15	16	17	18	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
19	20	21	22	23	24	25	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	30	31						
26	27	28	29	30	31																																				

□ は郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。

※郷土資料館は館内改修工事のため、令和8年7月から令和9年3月まで休館します。

発行：令和8年（2026）3月31日 船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館